

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 55 問で解答時間は正味 1 時間 15 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) (例 1)、(例 2)及び(例 3)の問題では 1 から 4 までの 4 つの選択肢、もしくは 1 から 5 までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を (例 1)、(例 2)では 1 つ、(例 3)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。
 なお、(例 1)、(例 2)の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 3)の質問には、1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 1)

101 助産業務を行うことが可能となるのはどれか。

1. 国家試験受験日以降
2. 合格発表日以降
3. 合格証書受領日以降
4. 助産師籍登録日以降

正解は「4」であるから答案用紙の ④ をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

| | | | | |
|-----|---|---|---|---|
| 101 | ① | ② | ③ | ④ |
| | | | ↓ | |
| 101 | ① | ② | ③ | ● |

答案用紙②の場合、

| | |
|-----|-----|
| 101 | 101 |
| ① | ① |
| ② | ② |
| ③ | ③ |
| ④ | ● |

→

(例2)

102 保健師助産師看護師法が制定された年はどれか。

1. 明治 32 年(1899 年)
2. 大正 4 年(1915 年)
3. 昭和 23 年(1948 年)
4. 昭和 43 年(1968 年)
5. 平成 13 年(2001 年)

正解は「3」であるから答案用紙の③をマークすればよい。

| | | | | | | | | | | |
|-----------|---|---|---|---|-----------|-----|-----|---|---|---|
| 答案用紙①の場合、 | | | | | 答案用紙②の場合、 | | | | | |
| 102 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 102 | 102 | ① | ① | |
| | | | ↓ | | | ① | | ② | ② | |
| 102 | ① | ② | ● | ④ | ⑤ | ② | | ③ | → | ● |
| | | | | | | ③ | | ④ | | ④ |
| | | | | | | ④ | | ⑤ | | ⑤ |
| | | | | | | ⑤ | | | | ● |

(例3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の①と⑤をマークすればよい。

| | | | | | | | | | | |
|-----------|---|---|---|---|-----------|-----|-----|---|---|---|
| 答案用紙①の場合、 | | | | | 答案用紙②の場合、 | | | | | |
| 103 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 103 | 103 | ① | ● | |
| | | | ↓ | | | ① | | ② | ② | |
| 103 | ● | ② | ③ | ④ | ● | ② | | ③ | → | ③ |
| | | | | | | ③ | | ④ | | ④ |
| | | | | | | ④ | | ⑤ | | ● |
| | | | | | | ⑤ | | | | |

(2) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4)

104 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答：①②%

- | | |
|---|---|
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |

正解は「90」であるから①は答案用紙の(9)を②は(0)をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

| | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ① | (0) | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | (6) | (7) | (8) | (●) |
| 104 | (●) | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | (6) | (7) | (8) | (9) |

答案用紙②の場合、

| | |
|-----|-----|
| | 104 |
| ① | ② |
| (0) | (●) |
| (1) | (1) |
| (2) | (2) |
| (3) | (3) |
| (4) | (4) |
| (5) | (5) |
| (6) | (6) |
| (7) | (7) |
| (8) | (8) |
| (●) | (9) |

- 1 妊婦の飲酒によって認められる特徴的な胎児異常はどれか。
 1. 小頭症
 2. 白内障
 3. 四肢欠損
 4. 末梢神経障害

- 2 40歳以上を対象とした乳がん検診で推奨される検査はどれか。
 1. 胸部MRI
 2. 穿刺吸引細胞診
 3. マンモグラフィ
 4. 遺伝性乳癌卵巣癌症候群に関連する遺伝子変異の検査

- 3 妊娠による母体の糖代謝の変化で正しいのはどれか。
 1. 食後血糖値は低下する。
 2. 空腹時血糖値は低下する。
 3. 血中インスリン値は低下する。
 4. インスリン感受性が亢進する。

- 4 過剰摂取によって胎児の形態異常のリスクが高まるのはどれか。
 1. 鉄
 2. ビタミンA
 3. ビタミンB₂
 4. n-3系脂肪酸

5 陣痛で正しいのはどれか。

1. 胎盤循環は陣痛周期によらず一定である。
2. 陣痛発作時間とは産婦が痛みを感じる時間をいう。
3. 後産期陣痛は胎盤剝離面からの出血の止血に作用する。
4. 分娩第2期で陣痛間欠4分は平均的な陣痛間欠時間である。

6 子宮収縮薬を用いた分娩誘発で正しいのはどれか。

1. 分娩監視装置は陣痛が発来したら装着する。
2. プロスタグランジン F_{2α} の最大投与量は 50 μg/分である。
3. 静脈内投与の輸液量の増量は前回増量時から 30 分以上経過後に行う。
4. オキシトシンは 10 単位を 5% ブドウ糖液 500 mL に溶解して使用する。

7 体外受精・新鮮胚移植によって、妊娠した月経周期 30 日型の女性の分娩予定日の決定法で最も精度が高いのはどれか。

1. 最終月経の第1日目に 280 日を加えた日
2. 採卵日に 266 日を加えた日
3. 初診時の胎嚢の測定値からの推定日
4. 50 mm 以上の頭殿長<CRL>を測定した日からの推定日

8 妊娠 33 週の初妊婦。合併症はなく妊娠経過は順調。妊婦健康診査時の腹部超音波検査中に「気分が悪い」と訴え、顔色不良となった。

最初に行う対応はどれか。

1. 体位を左側臥位にする。
2. 頭部を挙上する。
3. 血圧を測定する。
4. 腹部を保温する。

9 36歳の初妊婦。妊娠経過は順調であった。妊娠39週0日、3,280gの児を正常分娩で出産した。分娩所要時間は15時間で、総出血量は420mLであった。Apgar〈アプガー〉スコアは1分後8点、5分後9点であった。バースプランに「産まれたら、赤ちゃんを胸の中で抱きしめたい」とあった。

この母子の早期母子接触の実施方法で最も適切なのはどれか。

1. 帰室まで継続して実施する。
2. 母親の体位は水平臥床とする。
3. 児の血糖値を確認後に開始する。
4. 児に経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉モニターを装着して観察する。

10 Rubin〈ルービン〉の母親役割における達成の概念を示しているのはどれか。

1. 母性の獲得は模倣、空想、脱分化というプロセスによって進められる。
2. 母親役割獲得プロセスは予期的段階から始まるとしている。
3. 産後12か月までの役割達成が含まれている。
4. 対象は思春期の女性である。

11 乳幼児期に起こりやすい事故を予防するための方法で適切なのはどれか。

1. ベランダの踏み台は柵に寄せる。
2. 浴槽内では足入れ付き浮輪を使用する。
3. 児が飲み込めない大きさのおもちゃを選ぶ。
4. 公園で遊ぶときはフード付きの上着を着せる。

- 12 早産児の感染予防に効果があるのはどれか。
1. 中鎖脂肪
 2. ビタミン D
 3. ビタミン K
 4. プロバイオティクス
- 13 健やか親子 21(第 2 次)の基盤課題 A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」の評価指標はどれか。
1. 10 代の人工妊娠中絶率
 2. 不妊専門相談センターを設置する自治体数
 3. 妊娠・出産に満足している者の割合
 4. 男性の育児休業取得率
- 14 出産手当金で正しいのはどれか。
1. 健康保険法で定められている。
 2. 異常分娩の場合には支給されない。
 3. 1 日につき標準報酬日額に相当する額が支給される。
 4. 被保険者が扶養している配偶者の出産にも支給される。
- 15 平成 16 年(2004 年)の少子化社会対策大綱で提唱されているのはどれか。
1. 思春期からの、かかりつけ医による女性健康支援
 2. 妊産婦のメンタルヘルスケア
 3. HPV ワクチン接種率の向上
 4. 不妊治療への経済的支援

- 16 助産所管理者が行う助産管理で適切なのはどれか。
1. 内科専門医を嘱託医として確保する。
 2. 緊急時搬送は嘱託医師を経由しなければならない。
 3. 応急医薬品の購入には医師の処方せんが必要である。
 4. 嘱託医師を定める際は医師の承諾書か合意書のいずれかを要する。
- 17 母子健康手帳に綴じ込まれている松井式便色カード(別冊No. 1)を別に示す。
適切なのはどれか。
1. 1番に近い色は母乳栄養児の便に特徴的である。
 2. 3番に近い色は胆道閉鎖症が疑われる。
 3. 4番に近い色は哺乳不良の児の便に特徴的である。
 4. 6番に近い色は消化管出血が疑われる。
 5. 7番に近い色は感染性腸炎が疑われる。

別 冊

No. 1

- 18 非侵襲的出生前遺伝学的検査(NIPT)で正しいのはどれか。
1. 母体の年齢が高いと陽性的中率は下がる。
 2. 遺伝カウンセリングと併せて行う。
 3. 公的医療保険の適用である。
 4. 妊娠8週未満で行う。
 5. 確定的な検査である。

19 妊娠初期の黄体に作用して黄体を維持するのはどれか。

1. hCG〈ヒト絨毛性ゴナドトロピン〉
2. 卵胞刺激ホルモン〈FSH〉
3. プロスタグランジン
4. キスペプチン
5. アクチビン

20 正常な胎児において妊娠 11 週の胎児超音波検査で認められるのはどれか。

1. 口蓋裂
2. 腹壁破裂
3. 全前脳胞症
4. 脊髄髄膜瘤
5. 臍帯ヘルニア

21 妊娠中に禁忌なのはどれか。

1. アスピリン
2. フェニトイン
3. ワルファリン
4. プレドニゾロン
5. プロピルチオウラシル

22 日本において妊婦の抗体保有率が最も低いのはどれか。

1. サイトメガロウイルス
2. 水痘ウイルス
3. トキソプラズマ
4. 風しんウイルス
5. 麻しんウイルス

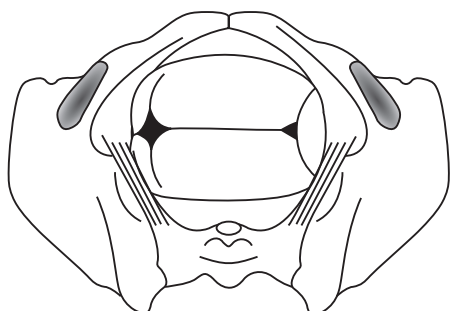
23 30歳の経産婦。妊娠37週5日。身長163 cm、体重66 kg。陣痛発来で来院した。妊娠経過は順調、胎児推定体重は2,560 g。来院時、努責感はない。陣痛間欠2分、陣痛発作20秒、胎児心拍数140 bpm、一過性頻脈を認める。内診所見は、子宮口8 cm 開大、Station ±0、子宮頸管の硬度は軟、未破水、先進する小泉門を4時方向に触れる。

この時点の助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 側臥位を促す。
2. 努責を誘導する。
3. 人工破膜を行う。
4. 病棟内歩行を促す。
5. 医師に陣痛促進薬の使用を提案する。

24 骨盤内の児頭の状態を図に示す。
第1頭位における不正軸進入はどれか。

1.



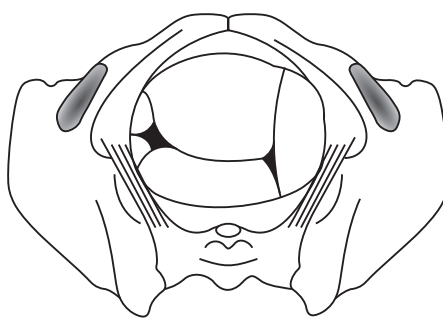
2.



3.



4.



5.



25 産褥7日の褥婦。発熱がみられた。体温 38.5℃。脈拍 88/分。排尿 8 回/日、排便 1 回/日。倦怠感を訴えている。乳房は軽度うっ滞しているが、発赤はない。子宮底の高さは恥骨上 3 横指で柔らかく触れる。赤褐色の悪露が少量みられ、下腹部痛が軽度あるという。会陰切開部の軽度の痛みが続いている。排尿時痛はない。

この時点の褥婦の状況で適切なのはどれか。

1. 産褥子宮内膜炎が疑われる。
2. うっ滞性乳腺炎が疑われる。
3. 頻尿は尿路感染によるものである。
4. 会陰切開部の癒合不全が疑われる。
5. 下腹部痛は後陣痛によるものである。

26 妊娠中から産褥期に、母体敗血症からトキシックショック症候群、全身性炎症反応症候群〈SIRS〉、播種性血管内凝固〈DIC〉などを起こし、周産期の母児の死亡原因となるのはどれか。

1. 梅毒
2. 淋菌感染症
3. 性器ヘルペス感染症
4. 性器クラミジア感染症
5. A 群溶血性レンサ球菌感染症

27 人工栄養よりも母乳栄養の新生児に起こりやすいのはどれか。

1. 便秘
2. 遷延性黄疸
3. 一過性多呼吸
4. 帽状腱膜下血腫
5. 甲状腺機能低下症

28 Aちゃん(日齢10、女児)。在胎31週5日、体重1,570gで出生し、NICUに入院し経鼻的CPAP療法を行っている。ベッドサイドの呼吸心拍監視モニターのアラームが鳴ったため確認したところ、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉65%、心拍数70/分、呼吸運動は停止していて体動はなく、顔面にチアノーゼが認められた。

初期対応で正しいのはどれか。

1. 胸骨圧迫
2. 酸素投与
3. 足底刺激
4. 気管内挿管
5. ブドウ糖液の静脈内注射

29 地域母子保健活動を行う事業と機関の組合せで正しいのはどれか。

1. 療養の援護 ————— 市町村保健センター
2. 養育医療の給付 ————— 児童相談所
3. 育成医療の給付 ————— 助産所
4. 助産施設への入所措置 ————— 福祉事務所
5. 母子家庭等就業自立支援 ————— 配偶者暴力相談支援センター

30 周産期医療体制において総合周産期母子医療センターに求められる施設条件はどれか。

1. 一般産科病床と母体胎児集中治療室〈MFICU〉は同数の病床数を有する。
2. 関係する診療科と連携して母児の異常に対応できる。
3. NICUとGCUは同数の病床数を有する。
4. 無痛分娩に対応できる。
5. 移植手術に対応できる。

31 性周期で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. エストロゲンが一定の濃度を超えるとポジティブフィードバックが起こる。
2. インヒビンの作用によって排卵に至る卵胞が一つになる。
3. LH サージ開始から 48 時間後に排卵がおこる。
4. 子宮内膜は増殖期に脱落膜様変化となる。
5. 乳房の容積は排卵時に最大となる。

32 子宮内黄体ホルモン放出システム<IUS>で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 月経量が減少する。
2. 授乳中では乳汁分泌量が減少する。
3. 人工妊娠中絶後直ちに挿入できる。
4. 5年間の避妊失敗率は約10%である。
5. 出血や腹痛がなければ10年間挿入できる。

33 造精機能障害の原因となるのはどれか。2つ選べ。

1. 射精障害
2. 精索静脈瘤
3. 精管欠損症
4. 両側精巣上体炎
5. Klinefelter<クラインフェルター>症候群

34 Aさん(47歳、女性)。市町村の子宮がん検診の結果から精密検査を勧められ、産婦人科外来を受診した。持参した子宮頸部細胞診の結果は、ASC-US(意義不明な異型扁平上皮細胞)であった。Aさんは、助産師に「どんな検査が必要になるのですか、教えてください」と質問した。

Aさんに勧められる検査はどれか。2つ選べ。

1. 直腸診
2. 骨盤MRI検査
3. コルポスコピー
4. ハイリスクHPV検査
5. 円錐切除術による組織診

35 妊娠41週3日の経産婦。前期破水のため入院し、子宮収縮薬で分娩誘発を行い、2時間経過後に陣痛が開始した。陣痛開始から30分後、子宮口開大4cm、Station-1、陣痛間欠1分30秒、陣痛発作30秒であった。胎児心拍数基線は120bpmで経過し、基線細変動は中等度から減少している。胎児心拍数陣痛図上に最下点が70bpm未満で持続時間が30秒以上の変動一過性徐脈がみられた。陣痛発作時に強く産痛を訴え、仰臥位で苦悶様表情を示している。

この時の対応で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 浣腸を行う。
2. 産婦を側臥位にする。
3. 子宮収縮薬を中止する。
4. 間欠的胎児心拍数聴取に切り替える。
5. 100%酸素3L/分で酸素投与を開始する。

36 28歳の初産婦。入院時、陣痛間欠7分、陣痛発作30秒で、内診所見は、子宮口2cm開大、展退度40%、Station -2、子宮頸管の硬度は中、子宮口の位置は中央であった。入院後6時間経過し、陣痛間欠3分、陣痛発作50秒となった。産婦は陣痛発作時に自ら深くゆっくりと呼吸し、間欠時には少し眠ることもあった。

この時の産婦のアセスメントで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 微弱陣痛である。
2. 母体疲労が著しい。
3. 活動期に至っている。
4. 血中 β -エンドルフィンが高まっている。
5. 逃避型のコーピングを用いて分娩に適応している。

37 第2前方後頭位の仰臥位分娩介助(側面介助法)で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 排臨の時点で肛門保護を会陰保護に切り替える。
2. 小泉門が恥骨弓下を滑脱するまで児頭を屈位に保つ。
3. 会陰保護は児頭が娩出した時点で終了する。
4. 前在肩甲娩出時は児の側頭部を会陰側に押し下げる。
5. 後在肩甲娩出後に児の体幹を両手で把持し骨盤軸に沿って娩出させる。

38 産科危機的出血への対応ガイドラインに示されている産科危機的出血の定義に当てはまるのはどれか。2つ選べ。

1. 経膈分娩後24時間以内の出血量500mL
2. ショックインデックス1.5
3. 産科DICスコア6点
4. Hb値7.0g/dL
5. 出血の持続

39 妊婦の検査所見で、出産後、母乳栄養の中止によって母子感染を減らすことができるのはどれか。2つ選べ。

1. HBs 抗原陽性
2. HCV 抗体陽性
3. HIV 抗体陽性
4. HTLV-1 抗体陽性
5. トキソプラズマ IgG 抗体陽性

40 産科病棟で提供している乳房ケアの成果を評価するための指標で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 助産師1人あたりの褥婦の数
2. 乳房ケアの判断過程の適切性
3. 乳房トラブルの件数
4. 褥婦のケア満足度
5. ケア計画の内容

次の文を読み 41～43 の問いに答えよ。

A さん(21 歳、専門学校生)。月経不順であった。性器出血と腹部膨満感を主訴に産婦人科を初めて受診した。「突然に出血して、止まったと思ったらまた出血した。これまでこんな出血はなかった」と言う。出血は鮮血で、強い腹痛の自覚はない。身長 155 cm、体重 57.5 kg (非妊時体重 50 kg)。体温 36.5℃、脈拍 78/分、血圧 128/82 mmHg。尿蛋白(±)、尿糖(－)。血液検査では Hb 10.8 g/dL、白血球 8,500/ μ L、血小板 24 万/ μ L。超音波検査にて子宮内に胎児が確認された。子宮底長 27 cm、腹囲 88 cm、胎児推定体重 1,550 g。超音波検査所見から妊娠 30 週 2 日と判断した。子宮口は閉鎖、展退度 30% 以下である。

41 経膈超音波検査の写真(別冊No. 2)を別に示す。

この時点で、考えられるのはどれか。

1. 切迫早産
2. 前置胎盤
3. 羊水過多症
4. 妊娠高血圧症候群
5. 臨床的絨毛膜羊膜炎

別 冊

No. 2

42 Aさんは入院となった。入院後2日、再度性器出血が生じ、30分間で200 mLに達して持続している。胎児心拍数陣痛図は、基線細変動が減少していた。その後の20分間の観察で、一過性頻脈は認めない。超音波検査で、羊水ポケットは35 mm、胎動は乏しい。

この時点のアセスメントで正しいのはどれか。

1. 内診による子宮口開大の確認が必要である。
2. 臍帯動脈からの出血がある。
3. 前期破水の可能性が高い。
4. 胎児機能不全が疑われる。

43 Aさんは緊急帝王切開術となった。術中出血量2,300 mL(羊水込み)、出生体重1,750 gの女児、Apgar〈アプガー〉スコア1分後1点、5分後5点。児は呼吸窮迫症候群のためNICU入院となった。Aさんの術後経過は良好であった。Aさんの両親にはAさんから連絡を入れるということであった。

産褥2日。「彼とは連絡が取れない。怒られるのが怖くて、まだ親に話せていない。今は親からの仕送りで生活している。NICUに入院するような子どもを育てる自信がない」と児の面会に行こうとしない。

Aさんに対する助産師の対応で最も優先されるのはどれか。

1. 地域の育児サポート情報を提供する。
2. 養子縁組の手続きを勧める。
3. 両親へ連絡をとるよう促す。
4. 避妊指導を行う。

次の文を読み 44～46 の問いに答えよ。

A さん(32 歳、初産婦)。これまでの妊娠経過に異常はなかった。妊娠 35 週 5 日。「2、3 日前から歩くと時々水が流れるような感じがあったが、尿漏れかと思って様子を見ていた。今日になり、量が増えた」との訴えで、夫とともに外来受診した。パットには透明な水様性の帯下があり、悪臭なし。体温 38.1℃、脈拍 88/分、血圧 128/76 mmHg。子宮の圧痛はない。胎児心拍数は 180 bpm であった。胎児は頭位で胎児推定体重 2,400 g、AFI 1.5。腔鏡診では少量の出血が混じった帯下を認めたが、膣円蓋の液体貯留は明らかでなかった。子宮口は閉鎖であった。

44 破水の診断のため追加して行う検査はどれか。

1. 血中 CRP の測定
2. マイクロバブルテスト
3. 膣内分泌物顕微鏡検査
4. 癌胎児性フィブロネクチンの測定

45 Aさんは前期破水と診断され、抗菌薬の点滴静脈内注射が開始された。直ちに分娩監視装置が装着された。分娩監視装置装着後20分間の胎児心拍数陣痛図(別冊No. 3)を別に示す。

胎児心拍数陣痛図のアセスメントで正しいのはどれか。

1. 基線細変動は増加している。
2. 遷延一過性徐脈がみられる。
3. 胎児心拍数の基線は頻脈である。
4. 胎児の well-being に問題はない。
5. サイナソイダルパターンがみられる。

別 冊

No. 3

46 Aさんは入院となり、この時の血液検査データはHb 11.5 g/dL、白血球 23,000/ μ L、血小板 35万/ μ L、CRP 24.5 mg/dLであった。絨毛膜羊膜炎の診断で、緊急帝王切開術による分娩となり2,400 gの女児を出産した。児はApgar〈アプガー〉スコア1分後2点、5分後3点、気管内挿管され、NICUに入院となった。児は敗血症の診断で治療が開始されたが、急速に多臓器不全が進行し、出生後4日に死亡した。Aさんは「赤ちゃんが死んだなんて信じられない。私が破水に早く気づいて病院に来ていたら、こんなことにはならなかった」と涙を流しながら夫に話している。

助産師のAさんへの対応で最も適切なのはどれか。

1. 早期の退院を勧める。
2. 夫と一緒にAさんの話を聞く。
3. 次の妊娠について考えるよう勧める。
4. 赤ちゃんのことは考えないように話す。
5. 睡眠導入薬の処方について医師に相談するよう勧める。

次の文を読み 47、48 の問いに答えよ。

A さん(30 歳、初妊婦)。妊娠 33 週 0 日に帯下に少量の出血が混じり軽度の下腹部痛があることを主訴に受診した。体温 36.8℃、脈拍 60/分、血圧 110/65 mmHg。内診所見は子宮口 2 cm 開大、展退度 50%。超音波断層法で子宮頸管長 23 mm、胎位は骨盤位であった。後陰門蓋の腔分泌物で BTB 試験紙は青変せず、悪臭はしない。血液検査で白血球の増加や CRP の上昇を認めない。A さんは入院となり、NST では胎児心拍数は正常であるが、12 分ごとに弱い子宮収縮が認められる。

47 この時点のアセスメントで正しいのはどれか。

1. 切迫早産
2. 高位破水
3. 子宮内感染
4. 子宮頸管無力症

48 A さんは安静臥床を指示され、点滴治療が継続された。妊娠 36 週 5 日、痛みを伴う規則的な子宮収縮が生じ、子宮口が 6 cm まで開大した。骨盤位であったため緊急帝王切開術による分娩となった。手術翌日、脈拍 72/分、血圧 118/56 mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO₂)98%。子宮底は臍下 1 横指で収縮は良好であり、外陰部にあてたパッドに少量の血液が付着している。採血の結果は、Hb 10.2 g/dL、血小板 25 万/ μ L、生化学検査は異常を認めなかった。手術後初めてトイレまで歩行した際、A さんは胸痛を訴えてうずくまった。A さんの左下肢には、軽度の発赤と腫脹が認められた。

A さんに生じた疾患で最も考えられるのはどれか。

1. 肺水腫
2. 周産期心筋症
3. 肺血栓塞栓症
4. HELLP 症候群

次の文を読み 49、50 の問いに答えよ。

A さん(34 歳、初産婦)。妊娠 40 週 2 日。陣痛開始から 3 時間が経過し、入院した。胎児推定体重は 2,650 g、入院時の内診所見は、子宮口 4 cm 開大、展退度 70 %、Station -2、子宮頸管の硬度は軟であった。入院から 4 時間後、羊水流出を認めた。陣痛間欠 4 ~ 5 分、陣痛発作 40~50 秒、内診所見は子宮口 5 cm 開大、展退度 80 %、Station -1、子宮頸管の硬度は軟である。先進部は小泉門で 11 時方向に触れる。

49 分娩経過の判断で正しいのはどれか。

1. 児頭は嵌入している。
2. 分娩第 1 期遷延である。
3. 第 1 前方後頭位である。
4. Friedman〈フリードマン〉曲線の活動期である。

50 入院から 8 時間後、陣痛間欠 2 ~ 3 分、陣痛発作 50 秒、内診所見は子宮口 7 cm 開大、展退度 100 %、Station +3、矢状縫合は骨盤横径に一致し、大泉門が触れ小泉門と同じ高さだった。A さんは呼吸が乱れ「痛くて我慢できない」と訴えた。

分娩進行の判断で正しいのはどれか。

1. 過強陣痛である。
2. 第 2 回旋の異常である。
3. 子宮頸管は熟化していない。
4. 分娩は正常に経過している。

次の文を読み 51、52 の問いに答えよ。

A さん(23 歳、女性、未婚)。妊娠歴なし。コンビニエンスストアでパート勤務をしている。勤務中に突然の腹痛と膣からの中等量の出血があり、早退して職場近くの婦人科クリニックを受診した。半年以上前から月経がないことを自覚していたが、医療機関は受診していなかった。意識は清明で、腹部は膨隆し、心窩部と下腹部に痛みを訴えている。下肢の浮腫著明。身長 155 cm、体重 80 kg(非妊時体重 60 kg)、体温 36.5℃、脈拍 90/分、血圧 178/100 mmHg。婦人科の医師が診察すると子宮内から少量の流血があり、経腹超音波検査で妊娠後期と思われる胎児を認めた。胎盤の辺縁に血腫を疑う像があり、子宮収縮に一致して胎児徐脈がみられた。婦人科クリニックの医師は、直ちに産婦人科と NICU のある高次医療施設に救急搬送受け入れを依頼した。

51 搬送依頼を受けた高次医療施設の助産師が、母体救命の観点において搬送元からさらに聞き出す情報で、最も重要なのはどれか。

1. 子宮底長
2. 最終飲食時間
3. パートナーの連絡先
4. 出血中の凝血塊の有無

52 高次医療施設に搬入された直後に、産科医師が A さんを診察すると、膣分泌物は血性少量、子宮口は 1 cm 開大、経腹超音波検査で約 80 bpm の胎児徐脈を認め、回復の徴候が認められなかった。救急処置室から直ちに手術室に移送され、全身麻酔下の緊急帝王切開術で 2,830 g の女児を出産した。Apgar〈アプガー〉スコアは 1 分後 3 点、5 分後 7 点、臍帯動脈血 pH 値 7.02 であった。NICU 医師によって蘇生処置が行われた。出血量は羊水を含めて 800 mL であった。A さんは術後、ICU に収容された。娩出された A さんの胎盤の写真(別冊No. 4)を別に示す。

A さんの術後に最も注意すべきなのはどれか。

1. 肺血栓塞栓症
2. 術後出血
3. 肺水腫
4. 敗血症
5. 心不全

別 冊

No. 4

次の文を読み 53 の問いに答えよ。

A さん(31 歳、女性、会社員)。28 歳で結婚した。2 年前に月経困難症のため婦人科を受診し、子宮内膜症と診断された。1 年前から基礎体温表をつけて排卵期に性交渉を持つようにしていたが、妊娠しないため婦人科診療所を受診した。A さんは何度か通院するうちに、助産師に「実は、性交のときに痛くて、性交渉を持つ日を指定されたりすると、とてもストレスになります。自分の仕事が忙しく、休んで病院に来るのも大変だし、不妊治療は受けたくないのです。夫は子どもを欲しがっているのに、悪くて言えません。でも、一度きちんと話そうと思っています」と訴えた。

53 助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 不妊治療を受けないという本人の意思決定を支持する。
2. 不妊治療によって痛みは軽減することが多いと伝える。
3. 夫には性交痛のことは話さない方がよいと説明する。
4. 妊娠すれば痛みの問題は解決すると説明する。
5. 心療内科の治療が必要であると伝える。

次の文を読み 54 の問いに答えよ。

開業助産師が、市の乳児家庭全戸訪問事業の委託を受けて、産後 3 か月の A さん (30 歳、初産婦) 宅を訪問した。A さんには訪問に戸惑う様子がみられた。部屋は整理整頓されている。児は体温 37.1℃、呼吸数 32/分、心拍数 110/分。定頸している。オムツかぶれはない。助産師は児の計測時、上腕内側に皮下出血があるのを認めた。児の表情は乏しく、あやしても笑わない。A さんは落ち着きがなく、計測が終わるとすぐに助産師から児を取り上げた。児の出生体重は 2,600 g、1 か月児健康診査時の体重は 3,500 g と母子健康手帳に記載があり、本日の児の体重は 5,000 g であった。助産師が皮下出血の原因を A さんに確認すると、「虫に刺された」と答えた。A さん夫婦は 1 年前に転入してきて周囲に知り合いはいない。助産師は継続的な支援が必要だと感じた。児の 4 か月児健康診査は 3 週間後である。

54 今後の対応で適切なのはどれか。

1. 育児グループを紹介する。
2. 1 週後に助産師が再訪問する。
3. 早急に地区担当保健師に連絡する。
4. 4 か月児健康診査でフォローアップする。

次の文を読み 55 の問いに答えよ。

自然災害発生後 3 日。助産師 A は被災地に派遣され、避難所に到着した。産褥 2 週間の褥婦 B さんから「母乳の出が悪くなった気がする。母乳だけで赤ちゃんは大丈夫でしょうか」と相談を受けた。B さんは妊娠 40 週 0 日で 3,200 g の児を出産し、完全母乳育児をしている。乳房トラブルはない。授乳回数は 10～12 回/日。児は体重 3,600 g、尿 8～10 回/日、便 3、4 回/日で、皮膚の色つやはよい。

55 現時点での助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 混合栄養を勧める。
2. 児をあまり泣かさないうえ伝える。
3. 現在は母乳で足りていると伝える。
4. 授乳回数を 1 日 10 回未満にすることを提案する。

